

安達吉信さん

(新潟県栃尾市在住)

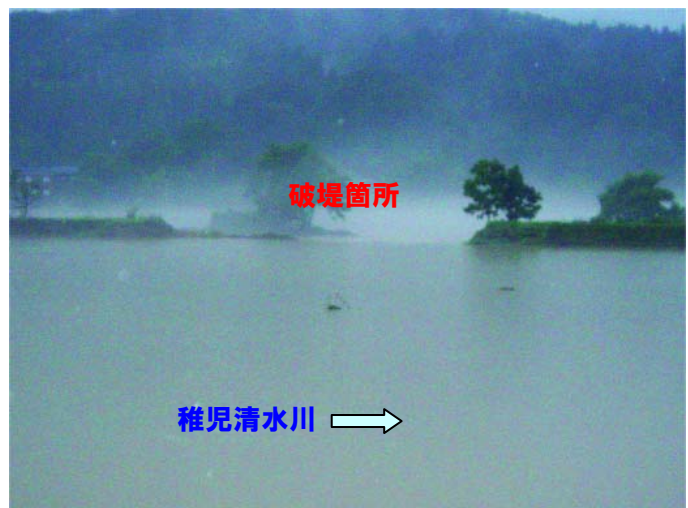
安達さんは見附市内の工場（刈谷田川左岸：長岡市側）に勤務中に水害を経験しました。民家に避難されたことが命を救うことになった当時の状況についてお話いただきました。



自宅から会社に通うまでに強い雨のためか、道路に茶色い水が流れ出していて、何となく普段と違うと感じました。

お昼ご飯を食べている最中、刈谷田川の水位が上がったため水門が閉められました。これにより排水ができず工場の敷地に水が溜まり、操業停止となりました。そのうちに上流から濁水が流れてきて駐車場が浸水。車が流される危険性があったため、工場より下流の方にある高台に車を移動させました。**水門閉鎖による湛水は過去に幾度かあったため「いつものことだ」と言い聞かせるように心を落ち着かせました。**

工場に戻ると浸水深は膝下くらいまでになり、さらに水かさが増す気配であったので、再度車を移動させるため高台へ向かいました。車の移動を終え会社に戻ろうとしたのですが、**膝上まで浸水し、流れが速くなったため会社に戻れなくなりました。**そのうちに上流から車や大木が流されてきて、とても歩ける状態ではなくなってしまいました。それでも何とか戻ろうとしたときでした。**路肩の側溝らしき深みに足を取られ危うく流されそうになりました。もし流されていたらと思うとゾッとします。**



稚児清水川の濁水は刈谷田川左岸を流下した。

会社に戻ることは諦め、民家の庭に避難しました。ふと周りを見ると、窓ガラスがバリバリと割れて家の中へ水が入っていくのが見えました。中に人がいるのではと思い、助けに行こうとしたのですが、自分の身を守るだけで精一杯。また、車のハザードランプがあちこちで点滅しては消えていく様子が見えました。浸水で電気系統がショートしたのでしょうか。そうこうしているうちに**目の前の道路が濁流渦巻く川と化していききました。川（道路）の中央は高く盛り上がり、これが道路かと思う程の流れに。**幸い、民家の方が「家に上がりなさい」と声を掛けてくれました。**無理に工場に戻ろうとしていたら今の自分はいないでしょう。**民家の方へのお礼にと畳上げを手伝うなどして被害を最小限にしようと思いました。水勢は衰えることなく暫く避難させていただくことに。その際にお茶をいただいたり、おにぎりをいただいたり、電話をお借りしたりと、本当にお世話になりました。そして、**このとき1人でなかったことは精神的に大変助けられました。**

道路を流れる水の勢いが弱まったのは 22:00 頃だったと思います。これまでの間に、**何回か会社や自宅に連絡を試みたのですが全く繋がりませんでした。**そこで、会社に向かおうとしたのですが真っ暗の中で浸水深が深く身の危険を感じたため、まずは高台に向かい公民館へ避難しようと決めました。ふだんは避難した民家から公民館まで歩いて 20 分程度なのですが、このときは 60 分程度かかりました。やっとの思いで公民館へたどり着くと既にたくさんの避難者がいました。**無料の公衆電話に列ができ、私も自分の安否を家族へ伝えるべく家へ電話しました。ベル音が鳴り、やっと繋がったと思ったのですが誰も出ません。このとき家族も避難していたのでした。**

翌日 6:00 頃目覚め自分の車を取りに向かいました。救命ボートがあちこちで動いている様子が見える中、泥水をかき分けながら車にたどり



見附市葛巻の下水処理場も浸水した。

着き、キーを回すとエンジンがかかりました。シートはグシャグシャで泥をかぶっていたのですが、助かったと思いました。ところが **500m ほど走らせるとエンジンがストップし、それきり車は動かなくなりました。**結局、車は諦め、工場に向かおうとしたのですが、関係者以外立ち入れない地域となっていて、もっとも浸水しているため先へ進めず、工場に向かうことも諦めました。**この頃、やっと家族と連絡を取ることができました。家族にしてみれば、工場にもいない、連絡も取れないということで、相当に心配したらしいです。**

浸水が引いた数日後に工場に行くと、**工場内は泥やゴミで埋め尽くされており、機械は全て泥水に浸かり、とても操業できる状況ではありませんでした。保険の査定が終わり、片付け始めたのは 1 週間後だったと思います。泥出し、ゴミ出しに 1 ヶ月、工場内の清掃・消毒、機械の清掃・修繕に 3 ヶ月かかりました。10 月ようやく操業でき軌道に乗りかけたと思った矢先の地震発生。工場は再び壊滅的な状況となりました。さすがに氣力を削がれました。**



平成 16 年 10 月 23 日に発生した新潟県中越地震の震度分布。

もし水害が発生する 1 日前に戻れるとしたら、**洪水や雨に関する情報を入手したいです。また、関係機関から被害予測に関する情報を提供してほしいと思います。**何も情報がなく本当に困りました。刈谷田川は暴れ川で昔から破堤を繰り返していたことは知っていましたが、**まさか、破堤するとは思いませんでした。事前に情報を知っていれば、車をダメにすることなく、死ぬかもしれないという恐怖感を味わうこともなかったかもしれません。**可能ならば、外出中や旅先でも情報を入手できる、年配の方でもわかりやすく入手できる、そのような情報提供・入手のしくみがあれば、なお良いと思います。

また、**日常的な知識として、周辺の地形を頭に入れて置けばよかったと感じています。**私は車を濁流が流れてくる下流の高台に移動してしまいましたが、

上流の方へ移動したほうが良かったです。それに避難経路を覚えておくことも大切だと感じました。

災害を経験してから1年間は、いつでも寝泊まりできるようにふとんを車に積んでいました。これは地震の経験が大きいですね。ただ、飲料水は今でも車に積んでいます。また、天気予報は毎日必ず確認するようになりました。

今回の水害で、民家に避難させてもらったことは非常によい判断でした。形振り構ってられない状況であったのは確かですが、この判断がなければ濁流に流されていたでしょう。また、民家の方には本当に感謝しています。1人でないということは精神的に大変助かりました。同時に、企業も地域との交流が重要だとつくづく感じました。そのような意味で地域ぐるみの防災活動は本当に重要です。